

# 2021 年度事業報告書

## 2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所

## I 事業の成果

### 1) 組織づくりの課題

今期は、組織づくりの課題として、2017 年に採択された新しいミッション一覧の見直しを進め組織の強化を図る方針を掲げ、常勤スタッフで目標を作成しましたが、全体での取り組みには至りませんでした。

財源確保、会員拡大のための会議を行いました。

#### 1-1) 中期計画と短期目標を結びつけよう

常勤スタッフを中心に 1 年後、3 年後、10 年後の組織構築目標を作成しました(資料 1)。方針に掲げていたミッション見直しのための会議は開催できませんでした。

#### 1-2) 財源の確保

寄付推進会議を 2 回開催しました。自主事業、委託事業については、2020 年度と同程度の実績となりました。寄付金の目標はほぼ達成しましたが、これまでの関係者からの大口寄付 2 件によるところが大きく、寄付推進会議の成果はまだ得られていません。

助成金が 1 件増え、その中に常勤スタッフの人件費を見込むことができたことと、寄付収入等で財政状況は若干改善しました。

#### 1-3) 仲間を増やそう

会員拡大推進会議を 3 回開催しました。その中で会員制度について議論し、別途理事会で定款細則を見直し、会員制度を変えました。また、目的や活動がイメージされるキャッチフレーズとして「水と農と生きものを守り・活かす 河北潟湖沼研究所」がつけられました。これをもとに、入会案内パンフレット案を作成中です。

### 2) 研究活動の課題

河北潟ビジョンに基づき再汽水化に関する基礎調査や水田の生物について市民参加型の調査活動、機関誌紙の発行を進めることを目指し、活動を行いました。

#### 2-1) ビジョンプロジェクト

再汽水化プロジェクト会議は 4 回開催され、必要な調査計画や資金獲得のための計画を策定しました。話し合いに基づいて現地調査を実施しました。塩分測定ローガーの設置等から、大野川から河北潟への海水流入の実態が分かってきました。クロベンケイガニの生息状況調査を実施しました。

地域循環共生圏プロジェクトは、担当者を中心に資料収集を行いました。

ビジョンプロジェクトの全体会議は開催されず、ビジョンとミッションの見直しは遅れています。

## **2-2) 市民参加型調査**

市民参加型調査としては、流域のゴミ調査を実施しました。ゴミが多く集まっているか所が分かりました。大学生のインターンシップの受け入れを行いました。zoom セミナーを 1 回実施しました。

## **2-3) 機関誌紙の発行**

総合研究は、原著論文 4 報を掲載した「河北潟総合研究」第 24 巻を発行しました。編集委員会は開催できていません。25 巻は編集作業中です。

通信かほくがたは、vol. 26-2～vol. 27-2 を発行しました。vo. 27-4 の発行は遅れています。

## **3) 地域連携をつくる課題**

従来からの河北潟周辺での連携の取り組みを継続強化することと、連携を流域に広げるために流域協議会をつくることを課題として取り組みました。

### **3-1) 河北潟自然再生協議会への働きかけ**

河北潟自然再生協議会総会において、法定流域協議会の結成を提案し、法定協議会の発足のための発意を河北潟自然再生協議会として行いました。

### **3-2) 河北潟流域自然再生協議会**

法定協議会の発足のため、関係団体間の調整を進め年度内の発足を目指しましたが、全体の意思決定に時間が必要なことなどから、まずは準備会が 3 月にスタートしました。

連携の課題について話し合う会議を 2 回、流域からの産業を生み出すプログラムを検討する会議を 3 回開催しました。

### **3-3) ラムサール条約登録に向けた連携**

日本野鳥の会とは流域協議会の課題調整の中で、ラムサール登録の方針を確認しましたが、まだ具体的な動きにはつながっていません。

#### 4) 河北潟の環境保全の環を拡げよう (参加型の実践活動)

河北潟の環境保全に取り組む人の環を拡げるための活動として、観察会やシンポジウム、田んぼの活動を行いました。新型コロナによる影響も見られましたが、多くの人が参加しました。

##### 4-1) 観察会・シンポジウム

各助成金を活用して、七豊米田んぼでの観察会 (13 名参加)、すずめ野菜の畑や生きもの元気米田んぼでの観察会 (4 日間 22 名参加)、流域野鳥観察ツアー (小規模モデルツアー、2 回 8 名参加)、河北潟自然再生まつりでの自然観察オリエンテーリング (30 名参加) を実施しました。3/27 にはオンラインと会場併用で河北潟流域シンポジウムを開催し、62 名の参加がありました。流域ゴミ調査は、7 日間で 27 名参加して実施しました。結果をパンフレットやクリアファイルにまとめ、配布しました。新型コロナの状況により、小規模な活動が多くなりました。

##### 4-2) 七豊米

農薬不使用で米作りを行った。田植えは新型コロナの状況もあり、イベントとしては実施せず、ボランティア参加のみで実施しました。6/20 には観察会、9/19 には稲刈りイベントを実施しました。その他苗代作りや除草作業等ボランティアに参加いただき、栽培期間のべ 122 名が参加され、約 480kg のお米が収穫できました。

#### 5) 自主事業

常勤スタッフを中心に、他の会員の協力のもと収益性の確保を進めてきましたが、事業規模は横ばいでした。人件費を加えるとまだ赤字であり、収益性の確保が引き続き課題となっています。

##### 5-1) 生きもの元気米・その他の生きもの元気農産物 (加工品を含む)

新たな契約農家の獲得と無農薬ほ場の契約を目指して取り組みました。新規農家が 1 軒増え、これまでの参加農家をあわせて 2 筆の農薬不使用の水田が増えました。レンコンを除いた水稻のみでは、ほ場面積 22,548 m<sup>2</sup>、ほ場枚数 9 枚となり、これまでで最も多くなりました。その他、新規の農家との話し合いを行い、2023 年度以降の参加の方向で検討されています。

新しい認証制度として流域保全農産物認証の仕組みを作りました。「河北潟を守る流域保全農産物」と明記した認証シールを作成しました。現在 1 軒の農家が参加されています。

生きもの元気米の販売量は少し減少しており、3 月末現在で昨年より 1.5 トン多い 3.3

トンが売れ残っています。売上は横ばいなので、今のところの収益性は上がっています。

#### 5-2) すずめ野菜

一年を通じて 40 品種ほどの野菜を生産し、生産した野菜はおもに金沢駅西広場でのマルシェにて金沢市内の住民に直接販売しました。生産活動には、農業体験を希望する大学生 4 名が参加しました。生きもの観察会には 11 月と 3 月に延べ 10 人が参加しました。

#### 5-3) 金曜マルシェ

毎週金曜日、全 34 回開催しました。今年度は販売品目を増やすため、7~8 月は出店いただいている農家さんに協力いただき、仕入れたスイカをカットして容器に小分けしたものを販売しました。夏以降は、お菓子の仕入れをはじめたことで、品数が増え、素材のこだわりなどが伝わり、来場者に喜ばれました。同時に毎週来場する方がわずかに増えました。

#### 5-4) ネットショップ

「河北潟湖沼研究所のお米屋さん」、「すずめ野菜」、「カホクガタ」の売上は大きな変化はありません。全体として出店手数料・クレジット手数料・取扱手数料などの固定費が大きく、それをカバーする販売規模になっていないので、収益性は改善されていません。

#### 5-5) 市民科学出版, その他出版事業

2 冊程度の自費出版の受注を目指しましたが、受注はできませんでした。2019 年度発行の『両生類に魅せられて』は販売を取り扱っており 50 冊程度を販売しました。カレンダーは販売して黒字となりました。

### 6) 受託事業

特定非営利活動にかかる事業としてのグリーン・アースからの 2 つの委託事業、こなん水辺公園解説員派遣事業、民間からの 1 事業は例年どおり実施しました。

#### 6-1) 河北潟干拓地農村環境保全活動

グリーン・アース農地・水・環境保全組織より、農地・水保全管理支払交付金における農村環境保全活動に係る計画策定業務を受け、現地調査および生態系保全計画の提案をおこないました。調査活動に関心をもつ大学生が 5 月に一度、防風林帯の樹木を確認する植物調査に参加しました。

#### 6-2) 県植生保全管理事業

継続して受注し実施しました。この中で湖岸植生断面図、及び湖岸植生図を作成しましたが、河北潟の湖岸植生の深刻な衰退が明らかとなりました。

### 6-3) こなん水辺公園

4月～11月と3月に例年どおり実施しました。公園案内パンフレットは作り直す予定でしたが、まだ作成できていません。

## 7) 助成金事業

地球環境基金とエフピコ環境財団から助成を受けました。その他、用途が指定された寄付金としてゆうちょコミュニケーション・フィランソロピー協会寄付プログラムに採択いただきました。

### 7-1) 地球環境基金

「流域がつながる仕組みを活用して、河北潟流域の水辺保全活動を推進する地域産業を拡大する」活動を実施しました。河北潟流域自然再生協議会設立にむけた勉強会やシンポジウムの実施、河北潟流域新聞の作成配布、農業体験活動、流域ツアー実施、視察等を行いました。

### 7-2) エフピコ環境財団

河北潟流域のゴミの実態調査を市民参加型で行いました。調査結果をパンフレットにまとめました。また、調査結果の概要を示したクリアファイルを作成しました。

### 7-3) ゆうちょ エコ・コミュニケーション

田んぼのミニビオトープづくり、七豊米の米づくり、生き物観察会、zoom セミナー・生きものカードの作成をおこないました。

## II 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事 者の 人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
研究・広報及び日常活動	河北潟の自然環境等の研究、 広報誌の発行、通信活動等、 研究助成	2021.4 ~ 2022.3	河北潟及 び周辺	7	全国の研究 者、地域住民 等 110 万人	674
民間助成事業	流域連携による環境保全・ゴ ミ調査	2021.4 ~ 2022.3	河北潟周 辺	20	地域住民等 10 万人	3,870
こなん水辺 公園解説員 派遣事業	河北潟とこなん水辺公園の自 然について来園者らに解説	2021.4 ~ 2022.3	金沢市	5	金沢市民その 他 50 万人	597
地域連携事 業	干拓地における水辺と農地保 全活動	2021.4 ~ 2022.3	河北潟干 拓地	4	地域住民等 10 万人	3,248
交流促進事 業	地域環境保全のためのイベン ト、啓発活動の主催及び受託	2021.4 ~ 2022.3	河北潟及 び周辺	4	地域住民等 10 万人	2
出版事業	研究成果物の普及,出版企画等 の事業	2021.4 ~ 2022.3	全国	4	地域住民等 50 人	370
地域循環社 会事業	環境保全米、循環型の野菜の 生産拡大	2021.4 ~ 2022.3	河北潟周 辺	6	地域住民等 10 万人	4,150

### (2) その他の事業

事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	支出額 (千円)
受託事業	調査受託等	2021.4 ~ 2022.3	石川県内	3	2,427